

第6回会議等における中間まとめ（案）に対する意見と対応案

資料1

頁数	章・項目	意見	対応案
1P	はじめに	「はじめに」部分について、施設整備の最終目標は、大学をよくすること。大学に期待されている役割、ミッションを示した上で、それを支える基盤としてのインフラ整備(資本的投資)が重要であるという流れの方が社会的な合意を得やすいのではないかと。	「はじめに」の冒頭に、大学のミッションと、その使命を果たすための基盤として教育研究環境の整備充実を図っていくことの重要性を記載。
1P	はじめに	「はじめに」部分について、5つの要点が書いてあるが、1～2にインフラのために予算が必要だと記載し、3～5でミッションについて記載している。順番としては、まずミッションを示してから、そのためにインフラという順番が適当ではないかと。	また、中間まとめの要点を、①現状・課題、②目指すべき姿、③対応方策、④公財政措置の確保の流れに修正。 (1～2P)
全体		掲載されている写真をもう少し大きくする工夫をしてもらいたい。	指摘を踏まえて修正。(2、8、14、15P)
全体		2章で現状、3章で在り方、4章で対応方策と記載されているが、同様のキーワードがあちこちに散見される。2～4章のダブリを解消し、もう少しコンパクトにまとめることはできないかと。	全体的に重複している文章を整理。 特に、第3章、第4章の重複については大幅に整理。
3P	第1章2	同一の文章の中に、「基盤」というキーワードが2回出てくるので見直しが必要ではないかと。	指摘を踏まえて修正。(3P)
7P	第2章2(1)	7Pの整備状況を示した写真に大学名を記載した方がよい。	指摘を踏まえて大学名を追加。(7P)
12P	第2章	第2次5か年計画の残りを整備するのにどれくらいの規模の予算が必要なのか、また、今後の整備の見通しとしてどれくらいの規模の予算が必要になるのか、投資規模を示した方がよりインパクトのあるものになるのではないかと。	12P、19P、21P、26～27P、36Pに記載してあった予算措置に関する記述を整理・統合し、「 第5章 国立大学法人等施設整備に対する公財政措置の確保 」として章を新設。
43P 61P	参考資料	43P、61Pの参考データに示された予算規模を本文中にわかりやすく記載するよう工夫が必要。	(1)第2次5か年計画における目標の達成 (2)今後の施設整備に対する公財政措置の確保として施設整備予算の確保の必要性を記載するとともに、参考資料とのリンクを記載することで関連データとの関係を明確化。 (34P)
全体		予算に関する記述があちこちにあり、曖昧な理念だけを並べた形になっている。財政当局に強く主張を示すためにも、予算に関する記述を一つにまとめた上で、数値目標も含めて、これだけ必要だということを明確に打ち出した方がよい。	
8P	第2章2(2)	25Pや29Pのように「キャンパスの環境」にスポットを当てるのが重要。海外のキャンパスの美しさと比較して日本の国立大学のキャンパス環境は不十分ということを強調してもらいたい。8Pの維持管理部分に、「environment」としての「環境・美化」の維持にコストをかけていないといった視点をもう少し表現できないかと。	指摘を踏まえて以下の記述を追加。 「 施設の維持管理は、学生や教職員等の安全確保、施設の劣化防止のみならず、良好なキャンパス環境の確保を図るために不可欠であることから ・・・」(8P)

頁数	章・項目	意見	対応案
12P	第2章 2(3)	システム改革の課題の中に、国が実施すべき課題と大学等が実施すべき課題が混じっている。それぞれの課題をわけて整理をした方が読みやすい。(追加意見)	表現の重複を解消するために全体の記述を修正。国の対応方策については、第4章(4)にまとめて記載。(29P)
15P	第2章 3(1)③	「経済価値の減少」部分について、減価償却費の減少が続いていくと陳腐化がさらに進行するというのはむしろ逆で、老朽化、陳腐化が進行していくと経済価値が減少していくのではないか。また、資産価値をキープしていくためにはきちんと投資していかなければならないことを表現したいのであれば、減価償却費という額の大きさが説明の中に入ってくるとわかりにくい。	表題を「資産価値の減少」とした上で、減価償却費との関係を「 <u>このような状態は、一般的に減価償却費の減少として表れてくると考えられる</u> 」と修正。指摘を踏まえて、2パラ、3パラを整理・修正。(14P)
16P	第2章 3(2)	プロジェクト研究等の増加により狭隘化が発生しているという記述について、外部資金を多く獲得する大学と地方の大学とで状況が異なり、一般的に狭隘化が発生しているとは言い難い状況。むしろ地方の大学では狭隘化よりも老朽化が深刻な問題。こうした大学間の差について、ある程度少しずつ条件を加えるなどして書き分ける必要があるのではないか。	「外部資金による <u>プロジェクト研究を獲得している一部の大学</u> において、……狭隘化が進展している <u>事例も見受けられる</u> 。」と表現を適正化。(15P)
27P	第3章 2(2)	「国立大学法人等の役割」として、多様な財源を活用した施設整備を行うことが「期待される」とあるが「必要である」と表現した方がよいのではないか。	指摘を踏まえて「 <u>必要である</u> 」と修正。(25P)
28P～	第4章 参考資料	附属病院については、現状認識の中で長期借入金について触れてもらっていることは評価できるが、現状は、長期借入金の負担を何とかしないとどうしようもない状態にきている。今後の方策の中でも、例えば、「病院の機能が十分に確保できるよう、病院の負担感に配慮した支援が必要である」といったもう少し踏み込んだ表現があるとよい。また、病院の手術件数の増加などの関連データを示しているが、こうした頑張っている現状とは裏腹に、論文数の減少や運営費交付金の減少など現場で負担感・疲弊が生じていることを示す負のデータも加えてもらえないか。	34Pにおいて、国が重点的に支援する対象施設を明確化する際の基本的な条件として、以下の記述を追加。 「 <u>④国立大学附属病院を取り巻く状況等を踏まえるべきであること</u> 、など一定の基本的な条件について検討していくことが必要である。」(33P) 関連データ(10)に、 <u>臨床医学論文数の推移</u> データを追加。(49P)
29～31P	第4章 1	新しいハコモノをつくることが中心でメンテナンスの対応があまり議論されず、学長のリーダーシップも十分目が回っていない状況があるのではないか。横浜国立大学のような優れた維持管理の取組がもう少しメインに来るような工夫をしてもらえるとありがたい。	8Pに中長期的な修繕計画の策定の必要性を記載。28Pの「 <u>長期的視点に立ったキャンパス環境の整備</u> 」において、大学等の対応方策として、「 <u>施設の維持・改善に係るPDCAサイクルを循環させていくためのシステム化を図るなど、実効性のある計画を策定していくことが求められる</u> 」旨を記載。(27P)

頁数	章・項目	意見	対応案
33P～	第4章 2(2)	<p>最後の3つの「S」(Safety、Sustainable、Strategic)のキャッチフレーズは非常にわかりやすい。</p> <p>3つのSのキャッチフレーズはわかりやすく賛成。ただ、言葉として、「Safety」は「Safe Campus」の方が適切。また、「Strategic」は、キャンパスが戦略的というのは違和感がある。洗練されている、高度化されているという意味合いで「Smart Campus」と表現してはどうか。</p> <p>3Sというのは大事にしたいが、Campusをつけるのはどうしても無理がある。それぞれ、セーフティ、サステナビリティ、ストラテジーと表現してはどうか。</p> <p>Safety Campus はそのままの表現でもよいのではないか。また、「Smart」はスマートICやITを想像するので違和感がある。(追加意見)</p>	<p>「<u>Safety</u>」「<u>Sustainability</u>」「<u>Strategy</u>」の3つの「S」で整理し、「重点的な整備が必要な課題(3S)のイメージ」に以下の記述を追加。(33P)</p> <p>教育研究環境の高度化・多様化(Strategy) ～<u>施設機能の高度化・多様化など質的向上への戦略的な整備</u>～</p> <p>地球環境に配慮した教育研究環境の実現(Sustainability) ～<u>環境負荷が少なく持続的発展が可能なサステナブル・キャンパスへの転換</u>～</p> <p>安全・安心な教育研究環境の確保(Safety) ～<u>耐震化をはじめ安全上著しい支障がある老朽施設・基幹設備の解消</u>～</p> <p>加えて、「政策課題・社会的要請への<u>機動的な対応</u>」と修正。</p>
33P～	第4章 2(2)	<p>耐震化に加えて、実験器具の耐震化など、地震が起きた際にどう機動的に対応できるのかというリスクマネジメントが大事で、特に、附属病院にはそうした観点が必要。ガスや水など地震発生時に供給されず、必要な手術が実施できない状況は問題。建物だけでなくライフラインにも目を向けることが大事で、危機対応も含めてキャンパスを強くするという視点を入れられないか。</p> <p>政府において安全・安心社会の実現を提唱している中で、大学附属病院は地域の災害拠点病院にもなる。安心という観点からも附属病院の視点を入れられないか検討してもらいたい。</p>	<p>該当部分に以下の記述を追記。</p> <p>「また、<u>災害時の応急避難場所、地域の拠点病院という観点からも、非常災害時に機能することが必要であることから・・・安全の確保が保障されることを基本的な条件として対応していく必要がある。</u>」(31P)</p>
36P	第4章 2(3)	<p>現在の国の財政状況では、今の施設需要に対して十分な支援を行うことは困難。36Pの「一定の収入が見込まれる施設については長期借入金等を積極的に活用すべきである」という表現だと、大学側は今までのスキームの中でやれということにとどまる。長期借入金も含めて、何か新しいシステムをつくっていかないと今までと変わらない。何か借入金をもっと活用されるようなシステム構築を目標としてはどうか。</p> <p>体力がある大学とそうでない大学と差がある。体力の弱い大学に対して、自助努力による整備を円滑に行うことができるよう、もう少しこう工夫すればいいんだという方を提示するなど、サポートの方法を検討してはどうか。文部科学省からこんなこともできるという形があると大学にとってはありがたい。</p> <p>横国の取組は非常に優れていた。ああいう優れた取組をうまく示していくことができればよい。この報告とは別に、グッドプラクティスをまとめて大学に示してはどうか。</p>	<p>第4章1(4)に、幅広い視点から多様な財源を活用した施設の整備や管理運営の可能性について検討する必要があることに加え、「<u>大学等の間で多様な整備手法のノウハウを共有化することが望まれる</u>」を追記。</p> <p>同様の箇所に、国は、「国立大学法人等が多様な財源等の確保や新たな整備手法への取組を円滑に行うよう、例えば、<u>税制上の措置や先進的な整備事例の提示等、各法人の取組に対してインセンティブを与える措置や積極的な情報発信に努めるなど必要な方を講じることが必要である。</u>」と記載。(29P)</p>

頁数	章・項目	意見	対応案
33～36P	第4章 2(2)	P. 36のイメージ図において、「安全・安心～」と「地球環境～」を基本的条件の整備とし、「教育研究環境の高度化・多様化」をクオリティアップと表現しているが、本文中ではそれが明確になっていないのではないか。(追加意見)	<p>指摘を踏まえて、以下のとおり明確化。(31P)</p> <p>①安全・安心な教育研究環境の確保 「……今後、国立大学法人等施設の整備に当たっては、安全の確保が保障されることを<u>基本的な条件として対応</u>していく必要がある。」</p> <p>②地球環境に配慮した教育研究環境の実現 「……今後、国立大学法人等施設の整備にあたっては、<u>地球環境への配慮を基本的な条件とし、……</u>」</p> <p>③教育研究環境の高度化・多様化 「このため、今後、国立大学法人等施設の整備にあたっては、<u>安全・安心な教育研究環境の確保と、地球環境に配慮した教育研究環境の実現はもとより、施設機能の高度化・多様化による質的向上を図ることにより建物の価値を高めるなど……</u>」</p>